



2020年6月1日

海底ガス田の開発で変化するイスラエル経済

～中東経済シリーズ～

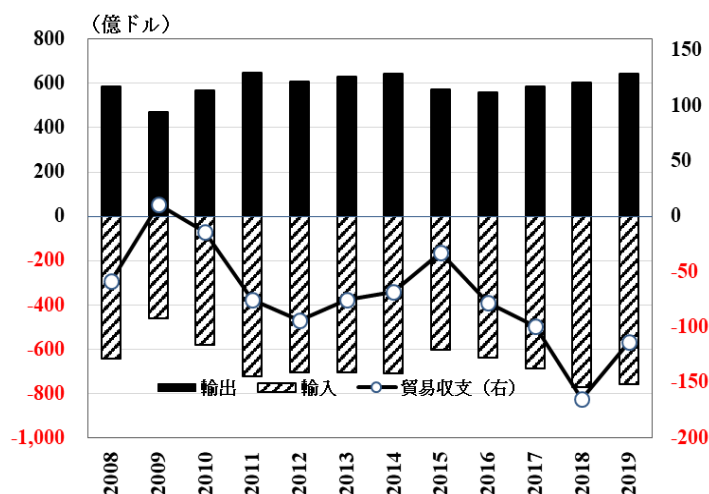
公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 主任研究員 九門康之

イスラエルは、高度な技術力に支えられたハイテク・IT 関連産業およびダイヤモンド加工産業で知られる。近年の海底ガス田の開発で変化する同国経済の近況を、貿易収支への影響と、日本とのビジネス動向も含めて概観する。

海底ガス田の開発

イスラエルはエネルギーを輸入に依存しており、2009年の海底ガス田の発見以降も、貿易収支は経常的に赤字が続いてきた¹（図表 1）。しかし、水面下では同国のエネルギー事情が徐々に変化している。産出するガスはまず自国消費し、余剰をパイプラインでEU 向けに輸出する計画が本年初めに具体化した²。今後、ガス生産が拡大すれば燃料の輸入が減少し、さらにガスの輸出で貿易収支が改善することが見込まれる。

図表 1： イスラエルの貿易収支



(資料) Bank of Israel, IMF データより作成

¹ 2019年、貿易赤字 114 億ドルのうち燃料輸入が 80 億ドルを占める。

² 2020年1月、イスラエル・キプロス・ギリシアがガス・パイプライン建設等で合意（次頁で詳述）。

図表 2： イスラエルの主要海底ガス田

	現状	規模
タマル・ガス田	2009年に発見。 2013年に生産開始。	2810億m ³
リバイアサン・ガス田	2010年に発見。現在開発中。	6050億m ³

(資料) Delek Drilling 社 Web より作成

近隣諸国との経済連携

海底ガス田が近隣諸国との経済連携のきっかけとなっている。イスラエルは 1947 年の建国以来、敵対するアラブ諸国に囲まれ孤立してきた。1979 年にエジプトと、1994 年にヨルダンと和平条約を締結したが、これまでのところ経済連携までは至らなかった。

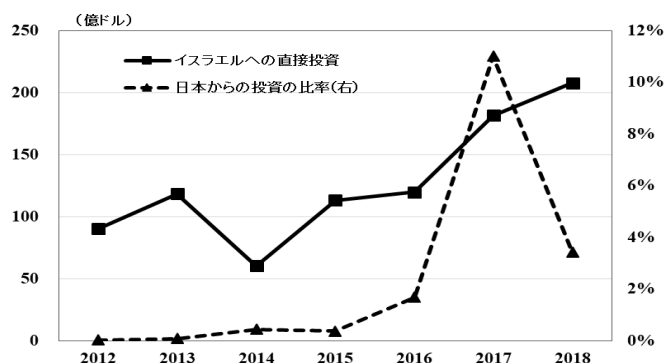
イスラエルのガス田はエジプトおよびキプロスのガス田と隣接している。ガス輸出に向けた連携構想が今回ようやく実現しそうである。キプロスとのパイプライン建設の合意に加えて、エジプトがイスラエル産ガスの LNG 化を検討している。また、西の隣国であるヨルダンはイスラエルからガスを輸入することに合意した。さらに将来、イスラエルとレバノン、シリアとの政治的対立が緩和すれば東地中海一帯にガスを仲介とする経済圏が出現する可能性がある。

日本とのビジネス

近年日本からイスラエルへの直接投資が増加している(図表 3)³。イスラエルはハイテク・IT・最新医薬品関連に強い企業が多い。同分野に関心を持つ日系企業がイスラエルとのビジネスを増やしていることを背景として二国間の交流が深まっている⁴。

イスラエルに進出する日本企業も増加しており、2018 年現在 72 社と中東ではサウジアラビアについて第 4 位である。イスラエルがエネルギーを安定して確保できる様になれば、同国経済はさらに安定するものと思われ、日本とのビジネス拡大の後押し要因にもなりそうだ。

図表 3： イスラエルへの直接投資と日本の比率



(資料) 世銀データ、JETRO 資料より作成

以上

³ 2017 年、日本企業がイスラエルの中枢神経疾患治療薬メーカーを買取したため投資金額が過去最高となった。

⁴ 安倍首相も、2015 年と 2018 年にイスラエルを訪問している。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。